

# 短大生の語彙の知識における実態

加藤 由美子\*・原田 まつ子\*\*

\* 帝京短期大学 \*\* 東京家政大学

Reality of the junior college student's vocabulary  
and the knowledge of a word and phrase

Yumiko KATOH, Matsuko HARADA

Teikyou Junior College\* Tokyo Kasei University\*\*

## 要約

本学栄養士専攻の学生を対象に、語彙に関する試験を実施した結果を報告する。

- ・設問に対する正解率で、最も高かったのは100%、最も低かったのは6.3%であった。
- ・辞書語彙の正解率は $66.3 \pm 11.0\%$ 、新聞語彙は $62.3 \pm 7.7\%$ と、やや新聞語彙の方が低かった。
- ・辞書語彙の正解率のヒストグラムは正規曲線であったが、新聞語彙では2つの山がみられ、非正規曲線を示した。
- ・新聞語彙の正解率は、辞書語彙に比べて有意に低かった $t=3.517$  ( $p < 0.001$ )。

## I 緒言

2013年の国際成人力調査(PIAAC)によれば、わが国の評価は「読解力」、「数的思考力」、「ITを活用した問題解決力」の3分野のうち、前者2分野でトップの結果であった。これは、上位5%の得点と下位5%の得点の差が、参加国の中で最小であったという内容である。また、高校・大学に進学していなくても、OECD平均の高卒者と同レベルであったことも判明しており、これは、日本が、全国的に基礎教育を重視してきた成果であると報告している<sup>1)</sup>。

しかし、「国語に関する世論調査」では、「他の人の話を聞いて、その人の言いたかったことと、自分の受け取ったことが食い違っていた経験」については、60代以上では6割の経験であったが、年代が低くなるごとに割合が高くなり、20代以下では8割前後であったという報告<sup>2)</sup>があった。そして、20代以下が考えるその原因は、「自分にある」が多く、これは自分自身の理解力や伝達力の未熟さを自覚している<sup>3)</sup>ともいえる。

近年、社会人となる人には、暗記だけでなく、相手の考えていることを深く察する、それに対処する等の決められたことができるだけでなく、自分で考えて行動することが求められている。しかし、最近の学生に当てはめると、学生は、目の前にあることを暗記することを中心とした試験対策で対処した生活をしていることが多く、学力低下も問題になっている。その

ため、各大学は、日本人大学生に日本語教育を実施する<sup>4)</sup>、初年次教育やリメディアル教育の中で、レポートの書き方を実施するなど、今後の大学の学びに必要な書き言葉等の養成を行なっている<sup>5)</sup>のが現状である。

学生が日常生活の会話で、互いの言葉が詰まる場面はあまり見られないが、教科書を読み、授業内容を把握するには、基礎的な能力がないと理解することができない。そして、この基礎的な知識が習得されていた上で、思考し、問題に対処する社会人としての力が培われると、著者らは考えている。

前回、著者らは、この基礎的な知識として語彙・語句と栄養士養成科目の得点を高低2群間で比較し、いずれも有意な差が見られた。特に、語彙・語句得点と栄養指導系科目は低得点者が多かったことを報告したが<sup>6)</sup>、今回は、語彙に焦点を当てた設問を準備し、得点の差異による結果を報告する。

## II 調査方法・分析方法

1. 対象学生：食物栄養専攻2年次学生96名、年齢 $19.6 \pm 1.1$ 歳
2. 調査時期：平成27年7月中旬授業内に実施した。
3. 質問票の内容と解答方法：「語彙・読解力検定公式テキスト 語彙・読解力検定合格養成BOOK」<sup>7)</sup> 3級および準2級から出題した。問題は50問とし、どちらの級も、「模擬試験」の中から、著者らが任意に選択した語彙(辞書語彙・新

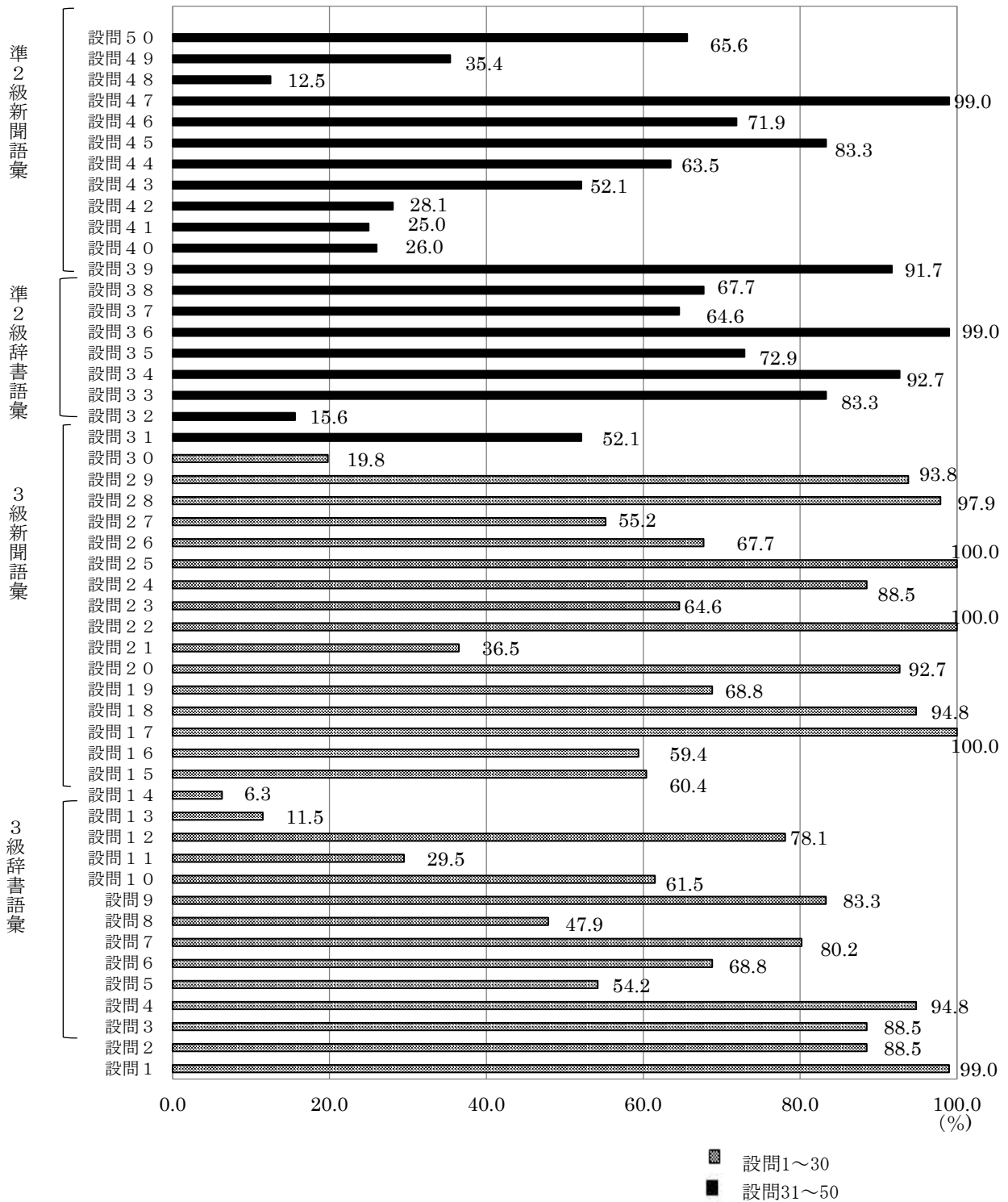


図1. 全設問に対する正解率

聞語彙)に関する設問とした(3級30問, 準2級20問)。内容は、熟語・ことわざ・反意語等についてであった。

解答方法は、授業内に質問票を配布し、公式テキストの方法と同様、設問に対して正解と思うもの1つ(5択)を選択後、マークシートに記入させ、回収した。得点は、1問につき1点とし、総合得点は50点とし、その正解率を算出した。

総合得点は、正解率を算出し、全設問の級別辞書語彙と新聞語彙に分け<sup>7)</sup>比較した。さらに、2つの級を合わせた辞書語彙と新聞語彙の関連性をみるため、各々の平均値をt検定により比較した。

統計ソフトはSPSS ver.22を使用した。

### III 結果・考察

50問の設問の正解率の状況を図1に示した。最も高い正解率は3級では100%で「盲導犬」・「ギネスブック」・「EUが発行する通貨単位」であり、準2級では99%で「利益の反意語」・「動物の肉と卵と植物の両方を食べること」であった。また、最も低い正解率は3級では6.3%で「帰化生物」、準2級では「神事・仏事に由来し、夕方から夜にかけて野外で上演される能」(12.5%)であった。

総合正解得点の分布を図2に示した。総合得点は、31~33点と34~36点が最も多く、59.4%(57名)を占めていた。これらを最頻値とすると、これ以上の上位得点者よりも下位者の方が多かった。

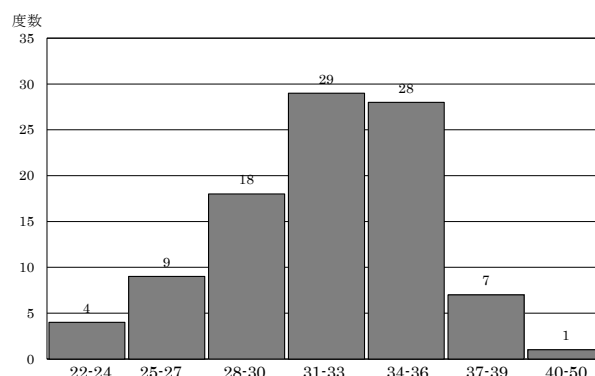


図2. 語彙(辞書・新聞)の総合得点のヒストグラム

級別、辞書語彙および新聞語彙別の得点を表1に示した。この4つの正解率の平均は、3級辞書語彙が73.3±13.5点と最も高く、準2級新聞語彙が55.5±28.0点と最も低かった。変動係数も同様に、準2級新聞語彙が高かった。

辞書語彙と新聞語彙に分けた結果を図3に示した。辞書語彙は正規曲線を描いているのに反し、新聞語彙は2つの山がみられた。

次に、辞書語彙と新聞語彙の正解率の関連性を表2に示した。辞書語彙の平均正解率は、66.3±11.0%、新聞語彙は62.3±7.7%で、新聞語彙の方が有意に低かった( $t=3.517, p < 0.001$ )。

正解率が高かった設問は、3級では「盲導犬」・「ギネスブック」・「EUが発行する通貨単位」で、準2級では「利益の反意語」・「動物の肉と卵と植物の両方を食べること」で、100~99.0%であった。これらは、比較的頻度多く使用する辞書・新聞語彙と思われる、特に、「動物の肉と卵と植物の両方を食べること」については、栄養士を目指している対象者なので、食事に

表1. 語彙(辞書・新聞)の得点および正解率(n=96)

	平均値	標準偏差値	変動係数	中央値	最大値	最小値
全体得点	31.9	3.6	11.3	32	40	22
<b>正解率</b>						
3級辞書語彙*1 (%)	73.3	13.5	18.4	79.2	99	29.5
3級新聞語彙*2 (%)	67.7	30.7	45.4	68.3	100	6.3
準2級辞書語彙*3 (%)	68.6	26.3	38.3	72.9	99	15.6
準2級新聞語彙*4 (%)	55.5	28.0	50.3	63.5	99	12.5

\*1 設問1~12  
 \*2 設問13~30  
 \*3 設問31~37  
 \*4 設問38~50

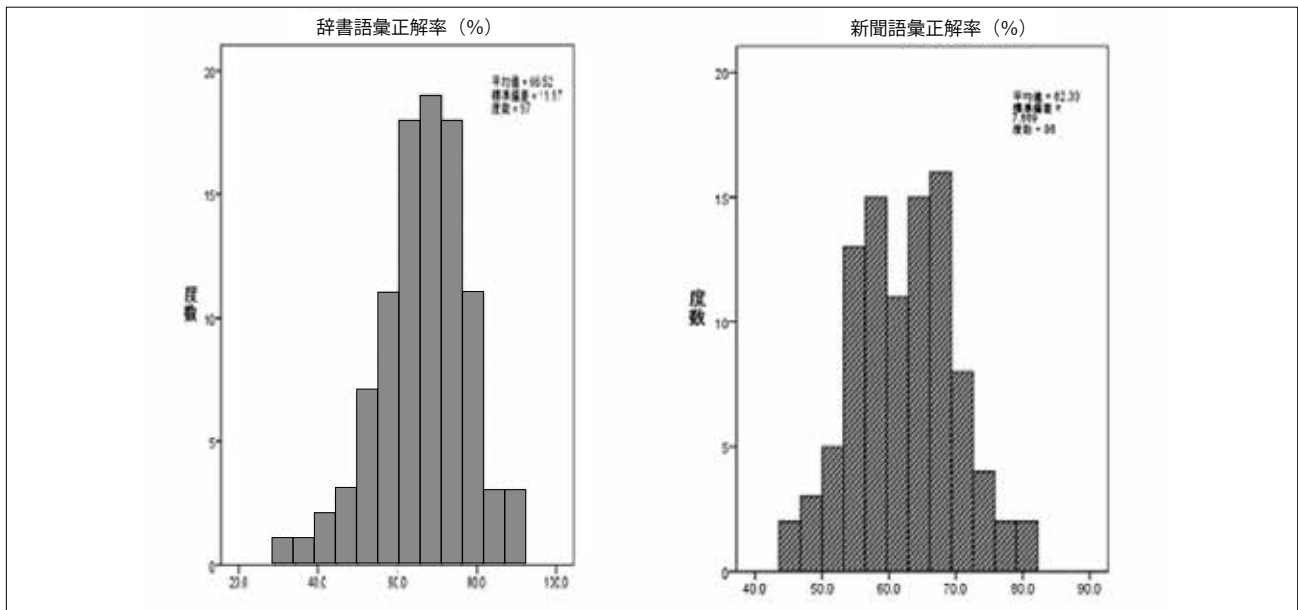


図3. 辞書語彙・新聞語彙正解率のヒストグラム

表2. 辞書語彙と新聞語彙の正解率の関連性 (n = 96)

	中央値	平均値±標準偏差値	t 値	p 値
辞書語彙*1 (%)	68.2	66.3±11.0	3.517	0.001
新聞語彙*2 (%)	61.3	62.3±7.7		

\*1 辞書語彙に関する19個の質問項目に対する正解率

\*2 新聞語彙に関する31個の質問項目に対する正解率

関心があったためと思われる。

しかし、解答率が低かった設問は、3級では「帰化生物」で6.3%、準2級では「神事・仏事に由来し、夕方から夜にかけて野外で上演される能」についての解釈で12.5%と、正解率が1割も満たない設問もみられた。「帰化生物」の「生物」は理解できると思われるが、「帰化」の意味が理解できなかつたのかもしれない。「帰」は、回って戻る、あるべき所に落ち着く、適当な所におさまる等の意があり、「化」は、姿を変える、天地自然の変化や卵の孵化の意があるほか、女性や若者には欠かせないともいえる「化粧」という熟語もある。これを熟語とする「帰化」は、それまで所属していた国とは違う国籍を得てその国民になることが辞書の書き始めに記載されているが、次は、植物の原産地以外の土地で自生・繁殖することも記されている<sup>8), 9)</sup>。1つの漢字の成り立ちや意味の理解が深ければ、熟語になった場合、その熟語の意味がイメージしやすいが、現在の義務教育での授業は、以前に比べて学ぶことも増えているため、漢字一つ一つの成り立ちまで学ぶ時間は困難と思われる。

近年は、辞書に代わって、情報機器が登場してきた。内閣府の調査では、2001年（平成13年）に60.5%だったインターネット世帯利用率は、翌年には8割を超え、2010年（平成22年）頃よりタブレット型端末も登場しており<sup>10)</sup>、平成7～8年生まれの対象学生は、情報機器の存在は当たり前を送ってきているといえる。

短大入学後は、連絡や検索が簡単にできる手のひらサイズのスマートフォンを肌身離さず持ち歩いている状態である。スマートフォンでは不明な事柄が、辞書よりもパソコンよりも手軽に検索でき、その言葉や意味のみ調べられる。そのため、興味のあることや日常的事柄は検索回数も多いと思われる。

低正解率であった「神事・仏事に由来し、夕方から夜にかけて野外で上演される能」の解答は、「新能」であるが、学生の多くは、能に限らず、興味を示さない事柄については調べることも少ないため、知らない、体験しない等のことから理解できなかつたのではなかつたかと思われる。

反面、多種類の事柄に興味を持ち、語彙を多く理解

できている学生もいる。そのため、正規分布のように中央が頂点にならず、その前後に位置する、比較的できていない学生とできている学生の両者が現れた結果ではないかと思われた。

辞書語彙と新聞語彙の全正解率を比較すると、どちらの級の平均値も新聞語彙が低く、2つの級を併せてみても、新聞語彙の方が有意に低かった。設問の辞書語彙は、学生が小中学校で学んだことがある熟語やことわざが多かったが、新聞語彙は、社会情勢の中で登場した言葉や熟語が主体になっているため、消滅していく言葉や新しい言葉も含まれている。そのため、日々の社会の動きに敏感でないと、知らないままで過ぎ去る言葉も多い。

2011年の調査では、新聞を読んでいる人は、18～19歳が40.2%と最も低く、年代を経て70代では90.2%である。また、そのうち18～19歳の毎日読む人は22.0%と、読むと回答した人の半分であり、時間も50.2%が10分であると報告している<sup>11)</sup>。インターネットニュースの利用率では、18～19歳は85.5%と高いが、その内容はスポーツ・芸能に関する記事が85.5%と最も多くを占めている<sup>11)</sup>ため、社会・政治に関する事柄の情報収集は少ないと思える。

このように、学生の情報収集は、情報機器を整備しており、新聞よりインターネットで得ることが多く、内容はスポーツ・芸能が最も多く、社会・政治に関する事柄の収集が少ない傾向であったことから、新聞語彙の方が、正解率が低かったと思われた。

人は、新しい概念に出会った場合、既に知っている概念を使って新しい概念を理解するが、言葉を知らないと理解は困難となる。しかし、知っている概念が多いと、新しい概念を理解することには苦勞が少なく、飲み込みが早くなるため、理解の速度は早まり、その結果、知識量の加速が予測される。また、言葉を使って思考することは、日常会話の中で、わかりやすい言葉を効果的に使うことができ、コミュニケーション能力も高くなると考えられる。さらに、言葉は、単語で成り立つため、語彙が多いと、思考の幅が広がり、知識量の豊富さにも繋がると思われる<sup>12), 13)</sup>。

しかし、先に述べたように、新聞や本を読む学生は減少しており、読んでいる内容も自分の興味のあるものに偏る傾向が高い。電通によれば、大学生は月額36,514円で約11個の趣味をもつと報告されているが、上位は、音楽鑑賞・パソコンでのインターネット・アニメであり、ネット上のサービス等を通して無料や安価でできるという共通の特徴が見られたとまとめている<sup>14)</sup>。さらに、大学生のLINE等の無料通話やメールアプリとその利用率は、高校生・社会人よりも大学生が高く、5割に近く、モバイル機器に頼った

生活を表しているといえる。澤崎は、「読書が好き」や「文章理解力が高い」学生は、インターネット・雑誌・漫画等より小説等の読書量との相関が強く、文章理解力や単文理解でも読書経験の違いが表れていると報告している<sup>15)</sup>。

このように、語彙数を増やし、単文や文章を理解できる能力を身につけるには、画像よりも、本・新聞・雑誌等の紙面を読む方に軍配が挙がると思われる。

川島は、中学生のゲーム・TV等と学習時間との関連を比較しており、ゲーム・TV：4時間、学習時間：2時間とゲーム・TV：1時間未満、学習時間30分では、前者の試験得点が低いことを報告している。人の前頭前野は、心の動きを司る役目があり、記憶・学習・行動の抑制や将来予測、コミュニケーションを円滑に運ぶ等の役割がある。しかし、長時間のゲーム・TV後の前頭前野は、30分～1時間ほど麻痺した状態になり、機能が戻りにくく、理解力が低下して学習効果が失われると述べている<sup>16)</sup>ことから、画像に偏重した情報収集の活用方法は、検討する必要があると思われる。

専門的な学習を実施する高等教育の授業内で、語彙の学習時間を設ける事は困難である。しかし、状況を改善するためには、学生が最も多く持ち合わせているスマートフォンの使用方法や活用方法を考えさせる、そして、学習効果にどのように影響するかガイダンスをすることが初期段階として考えられる。次に、習得の向上を目指した取り組みのために、学生自身に変化が「見える化」できるように記録し、継続させていく等で、語彙力・読解力向上に繋げる事が大切であると思われる。

新聞は教科書と同じ活字媒体である。TVやスマートフォン等の瞬時に消え去るニュースとは定着度がまったく違う。興味のある記事や理解できなかった記事は、何回も読み直しができる。新しい知識を毎日1つずつ吸収すれば、1年では365個の知識が得られる<sup>17)</sup>ことになる。この知識で得られた基礎的な力は、卒後、社会人となってからのよりよい表現力だけでなく、栄養士としてのコミュニケーション能力の延伸にも繋がると思われる。

## 参考文献

- 1) O E C D 国際成人力調査 (PIAAC) 日本語版報告書, 国立教育政策研究所, 2013.10
- 2) 平成24年度国語に関する世論調査, 文化庁, 2013.9
- 3) コミュニケーションの基礎となる「国語力」を見直そう, JMA マネジメント, 2013.12月号NO21

- 4) 高松正毅, 日本人大学生への日本語教育, 高崎経済大学論集, 第48巻, 第3号, 213～222, 2006
- 5) 佐藤尚子: 大学での学びに必要な語彙力の養成・リメディアル教育研究, 第6巻, 第1号, 2001
- 6) 加藤由美子, 原田まつ子「語彙・語句を入れた栄養士の養成科目試験からの検討」帝京短期大学教育研究報告集, 4号, 37-40, 2014
- 7) 「語彙・読解力検定公式テキスト 語彙・読解力検定合格養成BOOK」3級および準2級 朝日新聞×Benesse 編著 朝日新聞出版, 東京, 2012
- 8) 藤堂明保・松本昭・竹田晃・加納喜光編著「漢字源」改訂第四版 株) 学習研究社, 東京
- 9) 金田一京助・山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄「新明解」第五版 株) 三省堂
- 10) <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/6200.html>
- 11) 第5回 メディアに関する全国世論調査 (2012) 公益財団法人 新聞通信調査会
- 12) <http://matome.naver.jp/odai/2142060313955795301>
- 13) <http://syuchi88.jugem.jp/?eid=267>
- 14) 株) dentsu NEWS RELEASE 電通コーポレート・コミュニケーション局 広報部 25.3
- 15) 澤崎宏一 大学生の読書経験と文章理解力の関係 「国際関係・比較文化研究」第10巻第2号 静岡大学, 2012
- 16) [http://scienceportal.jst.go.jp/columns/interview/20060704\\_01.html](http://scienceportal.jst.go.jp/columns/interview/20060704_01.html)  
川島隆太「脳科学の真実 前頭前野の活発化で子どもが伸びる」東北大学加齢医学研究所
- 17) 田上貞一郎・田中ひさよ, 管理栄養士・栄養士になるための国語表現, 萌文書林, pp12, 2012